

50th

Hiroshima Flower Festival

それは、広島市民の小さな夢からはじまった。

平和を願うこの街に、花を咲かせたい。市民が主役になれる祭りをつくりたい。
夢は、まだ小さな種だった。

1975年。カーブ初優勝の熱気が、平和大通りを包んだ。
街にあふれた歓びが、やがて、「市民みんなで参加できる祭りをつくろう」という確かな想いへと変わっていく。

そして、1977年。その想いは広島に芽吹いた。

子どもたちの夢をうろこにした、巨大こいのぼり。平和の灯を抱き、3日間燃え続けた花の塔。
誰もが輝いた音楽や踊り、郷土芸能のパレード。
未来を楽しむ力と平和を祈る心。平和大通りには、人と人がつながる幸せがあった。

8月、広島は祈る。5月、広島は生きている喜びを咲かせる。
静かな祈りと躍動する祝祭。
そのふたつが響き合うから、フラワーフェスティバルは、世界への平和のメッセージであり続けてきた。

あれから、半世紀。
喜びは街に広がり、祈りは静かに受け継がれた。小さな夢は、市民みんなの記憶になった。

親から子へ、子からまた次の世代へ。
花が咲き、歌が響き、人々が集う。
街は何度も笑顔になった。

2027年、さあ、第50回へ。
今までのありがとうを咲かせ、未来へつないでいく。
アニバーサリー・ひろしまフラワーフェスティバル。





はじめに

ひろしまフラワーフェスティバル(FF)は2027年、節目の第50回を迎えます。FFは戦後広島復興の証しとして1977年に誕生しました。広島市の平和記念公園と平和大通り一帯で5月3～5日、花をあしらった市民たちがパレードやステージで躍動します。国内外から多くの人々が訪れ、日本有数のイベントとして知られるようになりました。

「原爆の日」の8月6日にある平和記念式典が祈りをささげる「静」の式典であるのに対し、FFは花に平和への願いを込め、平和に生きる喜びを分かち合う「動」の祭典として、歴史を刻んできました。

平和の輪を隔々まで広げる市民運動として、この祭典を積極的に展開することは、平和の意味を常に新鮮に問い直し、国際的な調和の醸成を呼びかけ続けることになると信じています。広島が世界中の人たちと手を取り合う国際平和都市として成長していくために、FFはこれからも進化していきます。

FF 誕生前夜

1945年8月6日の原爆投下からの復興を願う広島。20年後の65年には、幅100mの平和大通りが完成しました。「広島に全市をあけて楽しめる祭りが欲しい」。戦争、被爆、占領と続いた暗い時代の爪痕を残しつつ、廃墟から立ち上がり続ける広島は、新しい時代の到来を形にした祭りを求めています。

70年代に入り、中国新聞社や中国放送などの地元企業や広島青年会議所から「国際平和都市広島に新しい祭りをつくろう」との機運が高まります。75年に広島東洋カープがセ・リーグ初優勝を果たし、10月20日に平和大通りでパレードをした市民の熱狂も追い風となりました。

76年に広島県、広島市、広島商工会議所、中国新聞社、中国放送、広島青年会議所、広島祭委員会が中心となり、翌年5月の「ひろしまフラワーフェスティバル」の開催を決定。10月31日付の中国新聞朝刊には「ひろしまフラワーフェスティバル みんなが主役の新しい祭り」との見出しが躍り、シンボルマークやアイデアの募集も発表されました。

77年1月1日付の中国新聞朝刊に掲載された対談で、民俗学者の宮本常一は、「地域社会をよみがえらせるには、地域の人々が地域をどうするかを考える芽を育てなくてはならない。祭りはその芽として必要だ」との言葉を残しています。

祭りの創設に当たって、三つのスローガンが決められました。

- 1 広島を花と緑と音楽のあふれる都市にしよう
- 2 平和に生きることの素晴らしさと尊さを、参加者みんなで分かち合おう
- 3 広島から世界へ、豊かな生活文化と温かい人間関係の交流を呼びかけよう

FFの基本的な「精神」として今も生きています。



1977

第1回 新しい祭りを熱狂的に歓迎

5月3日。抜けるような青空の下、初めてのFFが開幕。平和記念公園と平和大通りには65万人が訪れ、新しい広島を歓迎しました。歌手佐良直美さんがテーマソング「フラワーフェスティバル」を歌い、76団体が参加したパレードで、花車は53台を数えました。

1978

第2回 象も行進 驚きの企画続々

広島市の姉妹都市長崎市から竜踊りが友情出演。木下サーカスの象3頭も平和大通りを行進しました。ミスフラワー（現フラワーアンバサダー）の3人がアグネス・ラムさんとパレードを盛り上げました。



1979

第3回 「花ぐるま」が登場

現在のテーマソング「花ぐるま」が登場しました。一般公募の歌詞に、シンガー・ソングライターの小椋佳さんが曲を付けました。フラワー歌手の芹洋子さんたちと市民が大合唱。芹さんをはじめ、岩崎宏美さんやヒデとロザンナたち人気タレントのステージでは身動きできないほどの人垣ができました。シンボルの花をカーネーションに決め、パレード参加者は1輪ずつ持って歩きました。

1984

第8回 全国から「広島さん」

フラワー歌手に石川秀美さん、柏原芳恵さんや吉川晃司さんも出演。レーガン米大統領たち海外からのメッセージ7通も披露されました。「全国の広島さん」と題した企画では、関東や九州から集まった「広島」姓の26家族52人がパレードしました。



1991

第15回 「鯉城やっさ」がスタート

1994年に広島で開催予定の第12回広島アジア競技大会のPRが本格化しました。広島県の代表的民謡踊り「三原やっさ」をベースにした「鯉城やっさ」もスタート。「ミスフラワー」を「フラワーコンパニオン」に名称変更しました。フラワー歌手は初の演歌歌手として坂本冬美さんが担当しました。

1994

第18回 アジア大会を盛り上げ

第12回広島アジア競技大会が開催された年。原爆の廃墟から復興を果たした広島が初めて迎える国際的スポーツの祭典を多彩な企画で応援しました。アジア大会マスコットキャラクターの「ポッポ&クック」のバルーンもパレードを盛り上げました。



1995

第19回 全国観光物産フェア導入

1月17日に発生した阪神大震災の被災地を支援する義援金集めをしました。新企画の柱は、各地の郷土芸能と全国観光物産フェア。エリアも初めて拡大し、基町クレドや本通り商店街などで協賛イベントを開きました。「平和の灯」から採火した火は妖精たちが「花の塔」まで運びました。

1998

第22回 夜の水上で初の演奏会

FFは絶えず新たな企画を導入しながら進化してきました。原爆ドーム対岸の元安川には、水上ステージとカフェテラスが登場し、FFの夜の魅力を演出しました。残念ながら費用が掛かりすぎ、1年限りの幻の企画となりました。



2002

第26回 祭りに活力 よさこい登場

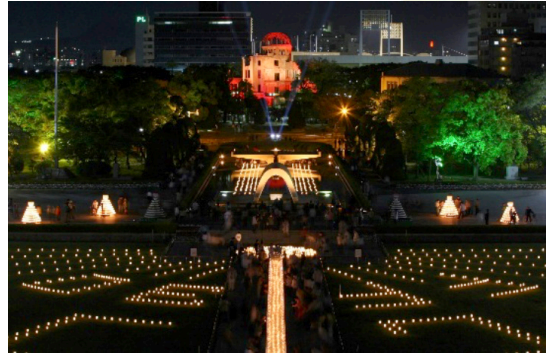


広島市の市民の祭りとして定着したFF。さらに活力を注入する「リニューアル元年」となりました。その切り札として「きんさい YOSAKOI」が導入されました。5月5日、こどもの日パレードに続く第2部として企画され、中四国九州の50団体計約2千人が鳴子を響かせながら踊り、観客を興奮の渦に包みました。

2006

第30回「スペシャルゲスト」に変更

30回目の節目を迎え、第1回以来29回続いた「フラワー歌手」を、ジャンルを問わない「スペシャルゲスト」に切り替えました。さらに第28回から始まった「フラワーキャンドル・メッセージ」に原爆ドームのライトアップを組み合わせ、夜のFFを拡充しました。



2008

第32回 神楽フェスティバル開始

ブラジル移民100年の年。広島県内の日系ブラジル人が初めてパレードに参加しました。さらに前年の第31回からの「折りづるみこし」に続き、初の「神楽フェスティバル」を開催。広島、島根、宮崎県の3団体が出演し、1万6千人の応募者から選ばれた1400人が神楽を堪能しました。

2011

第35回 震災被災者へ元気届ける



東日本大震災発生元年。日本中で自粛ムードが広がる中、被災地に希望と元気をと、開催を決断しました。たる募金の設置や、各出演者が応援メッセージを発信。福島県から避難してきた小学生が花の塔に点火しました。スペシャルゲストは子どものころから何度もFFに出演してきたPerfume。平和大通りでは初の「ひろしまストリート陸上」を開催しました。市民が育てた花を平和公園内にデザインして配置する「ピースフラワープロジェクト花育」も始まりました。



2014

第38回 YOSAKOI 流し踊りに

「きんさいYOSAKOIパレード」を一定のゾーンだけで踊っていた方式から、踊りながら進む「流し踊り」に変更。個人参加の「広島きんさい花咲連」の8年ぶりの新曲「ひろしまYOSAKOIきんさい花ぐるま」もできました。3日間で172万人が訪れ歴代2番目の人出となりました。

2016

第40回 40回彩る花の塔や花車

花の塔や花車に第40回の節目を彩る装飾がなされました。5月2日の前夜祭には、歴代のフラワーQueen約40人も集まりました。スペシャルゲストは芹洋子さん、平原綾香さん、岸谷香さん、モーリス・グリーンさんの初の4人。第3回から登場した「花ぐるま」を、フラワー歌手を4度務めた芹さんが熱唱しました。



2021

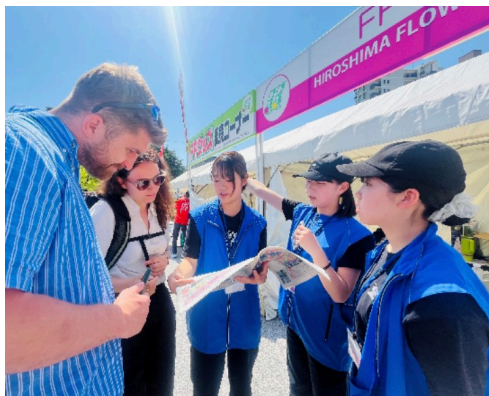
第44回 新型コロナで2年ぶり開催

前年の2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大で史上初の中止になりました。第44回も感染防止のため、平和大通りでのパレードやステージは中止。旧広島市民球場跡地でのステージプログラムを無観客で開催し、ライブ配信しました。平和記念公園は、花の塔や「ピースフラワープロジェクト花育」の花々で彩られました。

2023

第46回 G7で初の6月開催

G7サミットの広島開催に配慮し、初めて6月にずらして2日間開催しました。新型コロナ禍で2020年以降見送ってきた「花の総合パレード」や「きんさいYOSAKOIパレード」が4年ぶりに復活。全国のグルメが味わえる観光物産展や、企業や団体による体験ブース「ひろば」も多くの人でにぎわいました。



2025

第48回 被爆80年 平和の願い発信

被爆80年のFF。平和記念公園内で、インバウンド対応として折りづるオブジェに平和へのメッセージを書いてもらうコーナーや、高校生が通訳ボランティアを担うブースを初めて企画しました。「フラワーQueen」も「フラワーアンバサダー」に名称変更。きんさいYOSAKOIパレードをダンスも出場できる「パフォーマンスパレード」にするなど、時代に応じた多彩なリニューアルを進めました。